

【フォーラム】

ハッサーニーヤ語における仮定文の形式について

宮 本 雅 行

外務省 (在モーリタニア日本国大使館)

【要旨】 本稿は、ハッサーニーヤ語 (アラビア語・モーリタニア方言) における基本的な仮定文の形式を明らかにしようとするものである。Cohen (1960) は、ハッサーニーヤ語の仮定文 (の前提節) を導入する接続詞として、(イ) mneyn, (ロ) iida または iila, (ハ) luu / iluu の3つ (3組) を挙げ、実現可能性のある仮定文では (イ) または (ロ) が、実現可能性がない仮定文では (ハ) が用いられるとしている。しかしながら、筆者の調査では、iida や luu / iluu が用いられる例は見られず、代わりに、ile が実現可能性の有無にかかわらず極めて広範に用いられており、現在あるいは未来の事象を対象とする実現可能な仮定については ileyn も頻繁に用いられることが認められた。また、ile と ileyn の双方が可能な仮定文に関して、その使い分けに何らかの基準があるのかについて、いくつかの可能性を検討した*。

キーワード: ハッサーニーヤ語, アラビア語, モーリタニア方言, 仮定文

1. はじめに

本稿は、ハッサーニーヤ語と呼ばれるアラビア語・モーリタニア方言における基本的な仮定文の形式を明らかにしようとするものである。ここで基本的な仮定文とは、日本語で、「もし～であれば／であったならば、～であろう／であったらう」に相当する文で、前提節と帰結節の二つの節から構成される文を意味する。

Cohen (1963: 226–228) は、ハッサーニーヤ語の仮定文 (の前提節) を導入する接続詞として (イ) mneyn, (ロ) iida または iila, (ハ) luu / iluu の3つ (3組) を挙げ、(イ) は本来「時」を表す接続詞で、仮定文に使われることは稀であるとした上で、実現可能性のある仮定では (ロ) が、実現可能性がない仮定では (ハ) が用いられるとしている。しかしながら、筆者の調査では、インフォーマントからの聞き取りにおいても、また会話文のテキストにおいても、(ロ) の iida 及び (ハ) luu / iluu が用いられる例は見られず、現状は Cohen の記述とはいささか異なった様相を呈していることが察知された¹。

* 本稿の執筆に際し、2名の匿名査読者の方から多くの貴重な指摘を頂いた。また和田久彦氏にも貴重な助力を頂いた。記して深く感謝申し上げます。なお、本稿におけるいかなる不備もその責任は筆者一人にあることを申し添える。

¹ 例えば、多様な話題に関する近年のモーリタニア人の会話を記録した Sounkalo (2008) (テキスト部分は約 40 頁に亘る) においても、iida, (あるいは、その元になっていると思われる 'idaa) や luu / iluu (あるいはその元になっていると思われる law) を用いた例は一例も見出されない。

以下、筆者が収集した例文から、基本的な仮定文の最も一般的な形式を探ることとするが、ハッサーニーヤ語の仮定文においては、帰結節において特定の辞詞²が用いられることはないことが認められたので、分析の焦点は前提節に置くこととする。

2. 例文の収集方法

本稿における例文の収集は、モーリタニア人のインフォーマントからの聞き取りを中心とし、これに、Tauzin (1993) 及び Sounkalo (2008) のテキストからの引用、並びに、モーリタニア国営ラジオ放送の政府広報からの引用を加えた。インフォーマントは、ヌアクショット出身のアラブ人男性で、現在 22 歳の大学生（専攻は理工系）。同人をインフォーマントに選んだ理由は、(イ) 同人が高い現代文章アラビア語 (Modern Written Arabic, 以下 MWA と表記) 能力を持っていること、(ロ) フランス語という外国語を習得していること (大学の授業はすべてフランス語)、(ハ) ハッサーニーヤ語に対して高い関心を有しており、キリスト教会のシスターを対象としてハッサーニーヤ語を教えた経験も有することなどにある。

聞き取り調査は、筆者からインフォーマントに対して MWA の例文を提示してこれに対応するハッサーニーヤ語を作例してもらうことを中心としたが、インフォーマントからも、随時関連する例文を提示してもらった。MWA の原文は、筆者がアラビア語の雑誌から抜書きしたもの、あるいは筆者自身の作例であり、基本的に、前提節の導入接続詞として *ʿidaa* 及び *law* が用いられるものに限った。

なお、個々の例文に関し、インフォーマントに MWA の例文に対応する文を作例してもらった場合は、ハッサーニーヤ語を (a)、MWA の原文を (b) で示した。他方、テキスト及びラジオ放送からの引用例については、個々の例文の和訳の後にその出処を記した。特に何も記していない例文はインフォーマントの自由作例である。

3. アラビア語の表記方法

本稿におけるハッサーニーヤ語及び MWA の音声表記は、Peled (1992) における表記方法を基本に、Cohen (1963) 及び Heath (2003) の表記方法も参考にして、次のような表記方法をとることとする。

子音：

b 有声両唇破裂音, t 無声歯茎破裂音, t̥ 無声歯裏摩擦音, j 有声後部歯茎摩擦音, h 無声咽頭摩擦音, x 無声軟口蓋摩擦音, d 有声歯茎破裂音, d̥ 有声歯裏摩擦音, r 有声歯茎ふるえ音, z 有声歯茎摩擦音, s 無声歯茎摩擦音, š 無声後部歯茎摩擦音, ṣ̌ 咽頭化した無声歯茎摩擦音, ḍ 咽頭化した有声歯茎破裂音, ṭ 咽頭化した無声歯茎破裂音, ẓ 咽頭化した有声歯茎摩擦音, ɛ 有声喉頭摩擦音,

² 現代文章アラビア語の仮定文で、前提節が *ʿidaa* の場合に帰結節の導入語としてしばしば用いられる *fa* や、前提節が *law* の場合に帰結節の導入語として用いられる *la* に相当する辞詞を指す。

ğ 有声軟口蓋摩擦音, f 無声唇齒摩擦音, q 無声口蓋垂破裂音, k 無声軟口蓋破裂音, l 歯茎側音, m 両唇鼻音, n 歯茎鼻音, h 無声声門摩擦音, w 両唇軟口蓋接近音, y 非円唇口蓋垂接近音, ʻ 無声声門破裂音

以上に加え, ハッサーニーヤ語に独自の音を表すため, v (MWA の f に対応する有声音) 及び g (MWA の q に対応する有声音, 及び非アラビア語起源と考えられる単語に現れる有声軟口蓋破裂音) を用いた。

なお, 声門破裂音 ʻ については, ハッサーニーヤ語においては, 語頭の母音も含めて存在しないと考えて問題ないと判断したため, 表記していない。

短母音: a, i, u

以上に加え, ハッサーニーヤ語に独自の音として, e を採用した。

長母音: aa, ii, uu

以上に加え, ハッサーニーヤ語に独自の音として ee (多くの場合, MWA の ay) 及び oo (多くの場合, MWA の aw) を用いた。

なお, Cohen (1963), Tauzin (1993) 及び Sounkalo (2008) からのハッサーニーヤ語の引用例についても, その記載に当たっては筆者の表記法に改めた。

4. ハッサーニーヤ語の実現可能な仮定文

ハッサーニーヤ語における実現可能な仮定文は, その前提節が接続詞 ile で導入されるもの, 接続詞 ileyn / ineyn / mney³ によって導入されるもの, 及び, 導入のための接続詞が用いられないものの 3 種類に分類することができる。

4.1. 接続詞 ile

仮定文の前提節導入語として最も広く用いられるのが接続詞 ile である。前提節の動詞は完了形, 帰結節の動詞は文意によって完了形あるいは未完了形の双方があり得る。なお, ハッサーニーヤ語の動詞は MWA の希求法や接続法のような法を欠いており, 本稿全体を通じ, (4) (11) (26) の帰結節⁴を除き, 動詞はすべて直説法である。

- | | | | | | |
|-----|----|--------|-------------------|-------------|--------------|
| (1) | a. | ile | eedt ⁵ | ħaghag | meriḍ |
| | | if | you were | really | sick |
| | | ndoor | nemši | bi-k | šoor ṭabiib. |
| | | I want | I go | with-you to | a doctor |

³ この三つの単語の相違については 4.2 節参照。

⁴ これらの例文の帰結節の動詞は命令法である。

⁵ ハッサーニーヤ語では, 英語の be 動詞に当たる動詞として, 完了文では, MWA の kaana とともに, MWA の「戻る」という意味の一般動詞 eaada が好んで用いられる。また, 未完了文においては, be 動詞として, kaana の未完了形 yakuunu (三男単) が用いられることはなく, 常に eaada の未完了形 ieuud が用いられる (例えば (3) の帰結節や (9) の前提節)。なお, ハッサーニーヤ語では, yakuun は, 「〜以外」という意味の小辞として用いられる。

- b. 'idaa kunta mariidan bi l-fieli
if you were sick in reality
fa-sa-⁷aaxdu-ka ilaa tabiibin.
then-will-I take-you to a doctor
'If you are really sick, I will take you to a doctor.' (雑誌抜書き)
- (2) a. ngedu nemšu vbled ile bgeyt.
we can we go together if you wished
b. yumkinu 'an naqhaba maean 'idaa ši'ta.
it is possible that we go together if you wished
'We can go together, if you wish.' (雑誌抜書き)
- (3) a. ile lhagt eešriin sene
if you reached 20 year
laahi teuud⁶ tged tezreg.
will you are you can you vote
b. 'idaa balaġta eišriin mina l-eumri
if you reached 20 in the-age
fa-yakuunu laday-ka haqqu t-tašwiiti.
then-you are with-you right the voting
'When you become 20 years old, you have the right to vote.' (雑誌抜書き)
- (4) ile mšeyt šoor l-marša tveg-li galam.
if you went to the-market bring-me a pen
'If you go to the market, bring (buy for) me a pen.'⁷
- (5) ile jabar şeyd gaaē vii-zħaah yarjaē.
if he found a game early in- the morning he returns
'If he (= the hunter) gets game early in the morning, he returns.' (Sounkalo 2008:89)
- (6) bediyyaat ile maa nşaglu
streets if not they were cleaned
maa yenşaglu d-diyaar.
not they become clean the-houses
'If streets were not cleaned, the houses would not be clean.' (国営ラジオ放送)
- (7) a. ile eaad gaal daak kdeb.
if he was he said that he lied
b. 'idaa kaana qaala daalika, fa-qad kaqība.
if he was he said that then-indeed he lied
'If he had said that, he would have lied.' (雑誌抜書き)

⁶ eaada の未完了形が be 動詞として用いられている例。

⁷ この文は、帰結節が命令文になっている点で、基本的な仮定文の形式からは外れるが、例文の多様性を図るために敢えて提示した。例文 (11) (22) (26) も同じ。

4.2. 接続詞 *ileyn* / *ineyn* / *mneyn*

ileyn は、本来「～する時／～した時」という意味の「時」を表す接続詞であるが、仮定文の導入語としても多用される。*ileyn* の形式では、前提節及び帰結節ともに、そこで用いられる動詞は未完了形となる。なお、*ileyn* には、*ineyn* 及び *mneyn* というバリエントがあるが、ともに *ileyn* と同一の意味・用法で用いられており、インフォーマントによれば、この二つは一部の地方（あるいは地方出身者）によって用いられている転訛形（教科書には掲載できないという意味では「誤用」）であり⁸、利用する人の割合も高くない⁹ としていることから、本稿では *ileyn* と同一のものとして扱うこととする。

- (8) a. *ileyn* nšuuu-h nagaul-ha la-k.
if I see-him I say-that to-you
- b. ʾidaa raʾaytu-hu, xabbartu-ka.
If I saw-him I informed-you
'If I see him, I will tell you.' (筆者の作例)
- (9) a. *ileyn* ieuud l-jaww zeen ş-şubḥ, ngiis l-marša.
if it is the-weather good tomorrow I go to the-market
- b. ʾidaa kaana t-ṭaqsu jayydan ḡadan,
if it was the-weather good tomorrow
fa-ʾaḡhabu ʾila s-suuqi.
then-I go to the-market
'If it's nice tomorrow, I will go to the market.' (筆者の作例)
- (10) a. *ileyn* tagra tanjaḥ vi l-imtiḥaan.
if you study you succeed in the-examination
- b. ʾidaa darasta najaḥta fi li-mtiḥaani.
If you studied you succeeded in the- examination
'If you study, you will pass the examination.' (筆者の作例)
- (11) a. *ileyn* iji gul-ha l-i.
if he comes say-that to-me

⁸ インフォーマントは、*ineyn* は l 音から n 音への単純な転訛であるが、他方 *mneyn* については、本来は「どこ」という場所を表す疑問詞であるが、MWA の *ayna* (「どこ」) が、*aynamaa* (「どこであろうとも」) の形で仮定 (正確には「譲歩」と呼ぶべきかと思われる) を表す文 (節) を導入する役割をもつことから、*ileyn* との語形の類似もあって、*mneyn* を仮定文の導入語として用いている人がいるものと説明している。

⁹ *ineyn* 及び *mneyn* はインフォーマントの側から口に出たことはなく、また、モーリタニア南部の地方都市出身のモーリタニア人 (学歴は高校卒業、軍歴が長く、北部を始め全国各地に駐屯経験あり) にこの二つの単語の意味について質したところ、*ineyn* という単語は耳にしたことがなく、また *mneyn* には「どこ」という以外の意味はないという答えであった。更に、*mneyn* が多く現れる Tauzin (1993) には *ineyn* の例は皆無であり、他方 *ineyn* が多く現れる Soukalo (2008) には場所以外の意味で *mneyn* が現れる例は一例しかないことから、これら二つの単語の利用が極めて限られた (地方的に偏った) ものであることが確認された。

- b. ʿidaa jaa ʿa fa-xabbir-nii.
if he came then-inform-me
'If he comes, tell me.' (筆者の作例)
- (12) ileyn maa yurab idan an-h blaa mustagbal.
if not he was educated then that-he without future
'If he is not educated, he does not have a future.' (Sounkalo 2008: 20)
- (13) ileyn waahed itallag wahda imašiiil-ha mtiieat-h.
if a man divorces a woman he sends-her property-his
'If a man divorces a women, he sends her (some of) his property.' (Sounkalo 2008: 36)
- (14) mneyn teuud haḡḡ, naḡii-k wezenta-k men d-dheb.
if it is true I give-you weight-your of the-gold
mneyn teuud keḡb, nektla-k.
if it is a lie I kill-you
'If it is true, I will give you your weight in gold. If it is a lie, I will kill you.' (Tauzin 1993: 66)

4.3. 接続詞の導入がない例

ハッサーニーヤ語の仮定文には, 「～する人」を意味する ḡadd (MWA の ʿaḡad(un) 「一つ, 一人」) が MWA の不定関係代名詞 man と同様の意味・用法で用いられる形式 ((15) 及び (16)), 関係代名詞 elli (MWA の ʿalladii, ʿallatii に相当) が不定関係代名詞 (「～するところの者」) として用いられる形式 ((17)) の他, 通常の平叙文が仮定を表す例 ((18) 及び (19)) も見られる。

- (15) ḡadd maa gra maa yenjāh.
one not he studied not he succeeds
'One who does not study does not succeed.'
- (16) ḡadd maa-h maṣṡuul maa yujaales.
one not-he clean not he is not lived with
'One who is not clean is not lived with.' (国営ラジオ放送)
- (17) a. elli jhar xaasi l-xu-h taah vi-h
who he dug a hole for-brother-his he fell in-it
b. man ḡafara ḡufratan li-ʿaxii-hi waqaea fii-haa.
who he dug a hole for-brother-his he fell in-it
'One who digs a hole for his brother falls in it.' (諺)
- (18) kaanet mra blaa ḡaal yengaal
she was a woman without fat it is said
an ahla-ha maa eand-hum šii.
that family-her not with-them a thing
'If a woman is not fat, her family is said to be poor.' (Sounkalo 2008: 31)

- (19) kartiye bediyyat-ha mešin maa yeşaglu diyaar-ha.
 a quarter streets-its dirty not they are cleaned houses-its
 ‘If the streets of a quarter are dirty, the houses there are not cleaned.’ (国営ラジオ放送)

5. ハッサーニーヤ語の実現不可能な仮定文

ハッサーニーヤ語における実現不可能な仮定文は、例外なく、前提節は ile + 動詞の完了形の形式が用いられ、帰結節も完了形となる ((22) の帰結節は「基本的な仮定文」から外れるので、例外)。

- (20) a. ile maa kaanet bi-ya š-şagle maa newxađ.
 if not it was with-me the-work not I went out
 b. law lam yakun laday-ya l-eamalu la-maa xarajtu.
 if not it is with-me the-work then-not I went out
 ‘If I did not have the work, I would not go out.’ (筆者の作例)
- (21) a. ile kent mra maa taxayyamt maa-h.
 if I was a woman not I got married with-him
 b. law kuntu mra’atan la-maa tazawwajtu min-hu.
 if I was a woman then-not I got married with-him
 ‘If I were a woman, I would not get married to him.’ (筆者の作例)
- (22) a. eš laahi teadel ile kent v- bell-i.
 what will you do if you were in-place-my
 b. maadaa tafəalu law kunta makaani-i ?
 what you do if you place-my
 ‘What would you do if you were in my position?’ (雑誌抜書き)
- (23) a. ile kaan l-jaww zeen yaames,
 if it was the-weather good yesterday
 kent gist l-marša.
 I was I went to the-market
 b. law kaana t-ṭaqsu jayydan ‘amsi,
 if it was the-weather good yesterday
 la-kuntu dahabtu ‘ila s-suuqi.
 then-I was I went to the-market
 ‘If it had been nice yesterday, I would have gone to the market.’ (筆者の作例)
- (24) a. ile maa kent taaxart kent shivt-ha.
 if not you were you delayed you were you saw-her
 b. law lam tata’axxar la-ra’ayta-haa.
 If not you delay then-you saw-her
 ‘If you had not delayed, you would have seen her.’ (筆者の作例)

6. 各形式及び形式間の違いについての考察

6.1. 各形式の特徴

筆者がインフォーマントに提示した MWA の基本的仮定文は、その意味内容は多岐にわたったが、その多くは、ile の形式を用いた仮定文で回答された。また、インフォーマントによれば、ileyn / ineyn / mneyn (以下 ileyn で代表させる) や接続詞が用いられない例文も、ニュアンスの問題を除けば、ほとんど ile に言い換えることが可能であり、少なくとも、本稿の (8) ~ (19) はすべて言い換えが可能であるとしている。この事実からだけでも、ile の形式は、実現可能か不可能かを問わず、また現在・未来か過去かも問わず、極めて広範な範囲の事象を対象とし得ることが推察された。

一方、ileyn の形式も、ile に劣らない頻度で多用されているが¹⁰、これは、そもそも「時」を表す接続詞が現在・未来の事象を対象とする場合(「~する時」の場合)には、必然的に「仮定」の意味合いを帯びることから、自然な現象であると言える。この現象は MWA においても当てはまる。(なお、eindamaa は、MWA で、「~する時/~した時」を意味する接続詞である。)

- (25) yatahajjaru t-tiin eindamaa yajiffu.
 It turns to stone the clay when it dries
 ‘When the clay dries, it turns to stone.’ (雑誌抜書き)

ただし、(25) を「時」を表す文と見るか「仮定」文と見るかは微妙なところであり、conditional-temporal sense (Badawi et al. 2004: 660) という名称が最も適当かもしれない。

また、インフォーマントは、ile の形式は、実現可能な仮定については、多くの場合に ileyn の形式に言い換え可能であるが、実現可能性があっても、対象とする事象が過去の場合等は不可能であり、本稿の例文の中では(実現不可能な仮定分(20) ~ (24)に加え)、(2)及び(7)は不可能であるとしている。ここで、インフォーマントが、(2)及び(7)について言い換え不可能とした理由について考察するならば、まず(2)については、仮定の内容(「あなたが望むならば」)が一種の慣用語になっているためと解釈でき、また(7)については、ileyn の後に動詞の完了形が続いた場合は、本来の「時」の接続詞として「~した時」の意味が前面に出ざるを得ないためと解釈できるであろう(即ち、現在・未来事象についての「時」(「~する時」)と「仮定」(「~したら」)の間には上述のように大きな類似があるが、過去事象についての「時」(「~した時」)と「仮定」(「~していたら」)とでは全く意味が異なってくる)。

最後に、その他、hadd や関係代名詞を用いる形式((15) ~ (17))や通常の平叙文で仮定の意味を持たせる形式((18) ~ (19))は、ハッサーニーヤ語において

¹⁰ 例えば、Sounkako (2008) の会話テキストに出てくる約 120 個の仮定文のうち、半分以上で ileyn (あるいは incyn) が用いられている。

特に稀というわけではないようであるが、前者は、いわば一文の中で前提節と帰結節が合体した特殊な形式であり、後者は、あくまで文脈によってその仮定的な意味合いが出てくるもので、これといった形式も定め難いことから、本稿で対象とする「基本的な仮定文」の形式からは外れるものとする。

6.2. ile と ileyn との比較

6.1 節においては、ハッサーニーヤ語の仮定文では、ile の形式がほとんど万能と言えるほどに広範に用いられること、実現不可能な仮定文（の前提節）は例外なく ile によって導かれること、及び、現在あるいは未来の事象を対象とする実現可能な仮定については、ileyn も頻繁に用いられることを示した。

それでは、ile と ileyn の双方が可能な仮定文に関して、その使い分けに何らかの基準があるのか、あるとすればどのような基準なのかについて考察する。この点については、インフォーマントも明確な回答を持っていなかったところ、例文に沿って幾つかの可能性を探ってみたい。

6.2.1. 仮定の実現可能性の程度

まず考え得るのは、仮定の対象となっている事象（前提節の内容）の実現可能性の程度という観点である。ileyn がもともと「時」を表す接続詞であり、実現不可能な仮定では ile の形式しか用いられないことを考えれば、直感的には、ileyn 形式の方が仮定の程度が低い（実現可能性が高い）ように思われる。しかしながら、ile の例 (1) ~ (7) と ileyn の例 (8) ~ (14) とを比較した場合、実現可能性に関して両者の間に大きな差があるとは思われない。むしろ、例えば ile (3) で、「あなたが 20 歳になること」は、不測の事態が起きない限り自動的に保証されたものであり、ileyn (9) で「明日の天候がいい」可能性の方が高いとは言えない。また、ileyn (10) で「あなたが勉強する」可能性が、ile (6) で「あなたが街路を掃除する」可能性より高いと言える根拠もない。即ち、ile と ileyn の使い分けを、客観的な実現可能性の程度に見ることは困難であることが察知された。

6.2.2. 仮定の実現可能性に対する話者の心的態度

次に考え得ることは、仮定の実現可能性に対する（客観的ではなく）話者の心的態度の差である。例えば、インフォーマントによれば、ile を用いた (4) は、相手がほぼ確実に市場に行くことが分かっている場合に用いる表現であり、相手が市場に行くかどうか五分五分のような場合には、ile ではなく ileyn の形式が用いられるとしている。

- (26) ileyn temši šoor l-marša tveg-li galam.
 if you go to the-market bring-me a pen
 'If you go to the market, bring (buy for) me a pen.'

即ち, ile (4) は, 相手が市場に行くことを半ば当然の前提にして, (「もし市場に行くのならば」というよりは,) 「せっかく／どうせ市場に行くのなら」というニュアンスを持つのに対して, (26) の方は, 「ひょっとして市場に行くのであれば」というニュアンスを持つということになる。確かに, 使い分けの基準が話者の心的態度であると考えれば, 客観的な実現可能性の程度には左右されないこととなり, (1) ~ (7) と (8) ~ (14) の間の実現可能性に差が見出せないことにも納得がいく。

しかしながら, 話者の心的態度(主観)としては, ileの方が ileynよりも仮定の程度が低い(実現可能性が高い)ということになると, 仮定文全体を見た場合には, 実現可能性のない仮定文において, どうして ileynではなくて ileしか用いられないのか, 即ち, 客観的には実現不可能な仮定において, 主観的には実現可能性が高い場合に用いられる ile が用いられるのか, という矛盾をどう解釈するかという問題が生ずる。

6.2.3. 仮定の帰結に対する拘束性の程度

次に考え得ることは, 前提節の事象が実現された場合に帰結節の事象が実現される可能性の程度という観点である。これは, ile (3) が最も典型的な例となる(20歳になった時に選挙権がもらえる可能性はほぼ100%, 即ち20歳=選挙権)が, 他の例, 例えば ile (1) についても, 話者は, 相手が仮病を使っているかもしれないと疑っていて, 「もし本当に病気だと言うなら, 絶対俺が医者に連れて行くぞ」というような気持ちで発話しており, 主観的に(話者の心の中で)は病気=医者がり立っていると解釈することも可能である。この点に関して, インフォーマントから得た次の二例は示唆的である。

(27) ile gist-h šoor d-daar tejbr-h.
if you went to-him to the-house you find-him
'If you go to his house, you will see him.'

(28) ileyn tgis-h šoor d-daar tged tejbr-h.
if you go to- him to the-house you can you find-him
'If you go to his house, you might see him.'

(27) と (28) は, 前提節だけでなく, 帰結節の表現も微妙に異なっており, インフォーマントは, 前提節だけを言い換えることは不可能であるとしている。即ち, 相手が彼の家を訪ねる可能性は別にして, (27) の方は, 訪ねた場合にはほぼ確実に彼に会えることを示唆している(単純な未完了形動詞だけが用いられている)のに対し, (28) は, 会えるかもしれないという可能性を述べている(「~できる／~かもしれない」という助動詞が用いられている)に過ぎないということであり, 別の言葉で言えば, (27) の方が, 前提節の帰結節に対する拘束性が強いということになる。これは, 例えば ile (4) と ileyn (26) を比較して, (4) の方は, 「市場に行ったら絶対買って来てくれ」に対し, (26) は「(覚えていたら)買って来てくれ」の

ニュアンスということになる。

ただし、その場合には、例えば *ileyn* (13) で、男が離婚した女を扶助することは絶対的な義務ではないというニュアンスを生むことになり、また *ileyn* (*mneyn*) (14) で、本当か嘘かによって生死が決まるという話者のセリフも迫力を欠いたものとなる。また、それ以上に、例えば (26) をハッサーニーヤ語に言い換えた場合には、(29) のように *ileyn* が用いられるということ ((3) と同様に *ile* の方が適当と思われるのにもかかわらず) をどう解釈するかという問題が生ずる。

- (29) *eṭ-tiin ileyn iibes ieuud hjar.*
 the-clay if it dries it becomes a stone
 'If the clay dries, it turns to stone.' (原文は例文 (25))

6.2.4. 仮定の選択性の程度

もうひとつ考え得ることは、仮定(前提節)における A か B かという選択性の程度、あるいは、その選択の結果(帰結節)がもたらす重大性の観点である。これは、*ileyn* (*mneyn*) (14) に最も端的に表わされている(本当か嘘かでその運命には天地の差が出てくる)が、他の例、例えば (12) においても、「教育があるかないか」の選択(違い)が、未来があるかないかに直結するという重大な選択性が前提節の中にあると解釈することができる。この点に関し、*ile* と *ileyn* が間接疑問文の名詞節を導入する接続詞(「～かどうか」)として用いられる例としてインフォーマントから得た次の二例は示唆的である。

- (30) a. *maa naerav ile eaad laahi iji*
 not I know if he was will he comes
 b. *laa 'adrii maa 'idaa kaana sa-ya'tii.*
 not I know that if he was will-he comes
 'I don't know if he will come.' (筆者の作例)

- (31) *maa naerav ileyn ieuud*
 not I know if he was
laahi iji l-yoom walla ş-şubḥ.
 will he comes today or tomorrow
 'I don't know if he will come today or tomorrow.'

即ち、彼が来る日について「今日か明日か」という明確な選択性がある場合には、*ile* ではなく、*ileyn* が用いられるということである。しかしながら、例えば *ile* が用いられた (5) でも「獲物が捕れるか捕れないか」、(6) でも「道がきれいかきれいでないか」という二つの選択肢しかなく、極言すれば、すべての仮定において選択性が存在するわけであり、またその選択の結果の重大性も一概に判断することは困難であることから、少なくとも選択性の程度を単一の基準にすることは困難と思われる。

6.2.5. まとめ

以上、ile と ileyn の使い分けの基準について、(イ) 仮定の実現可能性の程度、(ロ) 仮定の実現可能性に対する話者の心的態度、(ハ) 仮定の帰結に対する拘束性の程度、及び(ニ) 仮定の選択性の程度（と選択の違いによる帰結の重大性）という4つの観点から考察した。考察の結果として、単一の、あるいは明快な基準を見出すことはできなかったが、少なくとも(イ)ではないことはほぼ明らかとなり、(ロ)(ハ)(ニ)については、それぞれ一定の妥当性を見出すことができ、今後の研究の緒は提示できたものと考えられる。

7. 結語

ハッサーニーヤ語における基本的な仮定文の形式には、
 (A) [前提節] ile + 動詞の完了形, [帰結節] 動詞の完了形または未完了形
 (B) [前提節] ileyn + 動詞の未完了形, [帰結節] 動詞の未完了形
 の2種類があり、仮定の対象となる事象（前提節の内容）に実現可能性がある場合には(A)または(B)が、実現可能性がない場合には(A)の形式が用いられる。実現可能性がある場合でも、仮定の対象が過去の事象の場合は(A)だけが用いられる。実現可能性があり、仮定の対象が現在・未来の事象の場合における(A)と(B)の使い分けについては、少なくともそれが仮定の客観的な実現可能性の程度でないことは確認されたが、明確な基準の有無やその内容については更なる調査・考察が必要と思われる。

参 照 文 献

- Badawi, Elsaid, Michael Carter and Adrian Gully (2004) *Modern Written Arabic, A Comprehensive Grammar*. London and New York: Routledge.
 Cohen, David (1963) *Le Dialecte Arabe Hassaniya de Mauritanie*. Paris: Librairie C. Klincksieck.
 Heath, Jeffrey (2003) *Hassaniya Arabic (Mali): Poetic and Ethnographic Texts*. Wiesbaden: Harrassowitz Verlag.
 Peled, Yishai (1992) *Conditional Structures in Classical Arabic*. Wiesbaden: Otto Harrassowitz.
 Soukalo, Jiddou (2008) *Spoken Hassaniya Arabic*. Hyattsville: Dunwoody Press.
 Tauzin, Aline (1993) *Contes Arabes de Mauritanie*. Paris: Editions Karthala.

執筆者連絡先：

Ambassade du Japon
 Al-Khaima City Center, 10, Rue Mamadou Konate
 BP 7810, Nouakchott, Mauritanie
 miyamotom@hotmail.co.jp

[受領日 2009年5月28日

最終原稿受理日 2010年1月31日]

Abstract**The Form of Conditional Sentences in Hassaniya**

MASAYUKI MIYAMOTO

Ministry of Foreign Affairs (Embassy of Japan in Mauritania)

This paper aims at presenting the popular forms of the basic conditional sentences of Hassaniya (the Mauritanian dialect of Arabic). Cohen (1960) presents three groups of conjunctions introducing the protasis clause of a conditional sentence: (a) *mneyn* (b) *iida* or *iila* and (c) *luu/iluu*. He adds that (a) or (b) is used in a sentence with a realizable condition, whereas (c) is used in a sentence with an unrealizable one. However, a survey the author recently conducted in Nouakchott did not find any examples of a conditional sentence in which *iida* or *luu/iluu* was used. Instead, it was observed that *ile* is used very widely in conditional sentences both with realizable conditions and with unrealizable ones, and that *ileyn* is also frequently used, in addition to *ile*, in conditional sentences with realizable conditions involving present or future phenomena. This paper also attempts to find a Merkmal or Merkmals to distinguish between *ile* (an *ile*-conditional sentence) and *ileyn* (an *ileyn*-conditional sentence) from four points of view: the degree of conditionality, the speaker's psychological position toward the conditionality, the binding-degree of protasis to apodosis, and the degree of selectivity in the condition.